

山を育てる 仲間たち



#011 庫富林業グループ

KURATOMI RINGYOU GROUP

良質な天然広葉樹でも知られる日高管内で3番目に結成された林業グループ。地区名の「庫富」は兵庫県と富山県からの入植者が多いことから名付けられたとのこと。令和2年度東北・北海道林業グループコンクール北海道代表。



「やってみよう」と思ったことに挑戦し続け57年。 培った知恵と技を託せる後継者の出現に期待。

さまざまな取組でベテランたちが実力を発揮

庫富林業グループは、自ら森林を整備する知識と技術を習得したいと望む地域の農家8名が、昭和38年に結成しました。林業普及指導員がまとめ役を引き受け、地域の農林業を担う人づくりの場ともなりましたが、半世紀以上もグループ活動を継続できたのは、なにより活動そのものが楽しかったからだと会員たちは話します。現在の会員は6名で、2名は道外からの移住者。結成時からの会員もまだまだ現役です。

活動ではその時々で会員が注目することに挑戦し、実践で学びながら経験を積み重ねてきました。挿し木に興味を持った際には、林業試験場から挿し穂を得たことを機に育苗を開始。育てた苗木は各地の植樹活動に提供して喜ばれました。また、試行錯誤も楽しみ、平成19年の炭窯製作では、よくあるドラム缶の簡易炭窯ではなく、ヒューム管を用いた炭窯づくりに挑戦。難工事を経て完成した炭窯では、調理や融雪に使う木炭を生産しました。現在は休止状態ですが、メンテナンスは続けています。

森林機能を生かす地域貢献のたすきを次代に

日高振興局森林室平取事務所から知らされるさまざまな補助事業にも取り組みました。里山林復活を目的とする森林山村多面的機能発揮対策交付金事業では、日高町に施設や天然林を所有する学校法人八紘学園と森林整備協定を締結。平成27年から6年間、間

伐による伐採木を薪として搬出、事前の山林調査や伐採搬出する材積の決定、搬出路網の整備なども一貫して行いました。同事業は令和2年度で終了ですが、ノウハウも道具もあるので同様の要請があれば応じたいと意気込みます。



活動の継続には、蓄えた知恵と技を伝える後継者が必要です。町内外の交流はコロナ禍により停滞気味ですが、この状況が都市に住む人々の考え方を変え、自然に回帰し森林に目を向けるきっかけとなるならば、そこに「林業グループの出番があるのでは？」と会員たちは期待しています。

